



## \*鏡開きをしました(1月12日)

12月に子ども達が頑張って重たい杵を持ち上げながら餅つきをしました。この日は、その時に作った鏡餅を順番に木づちで叩いて割りました。始めに鏡開きの紙芝居を観て、どうして鏡開きをするのか、どうして木づちで割るのか等を知りました。また、お正月にお供えしたお餅を頂くと、1年間元気に過ごせるという話を聞いて、昔からの言い伝えに興味をもったようでした。お供えして固くなっているお餅は、一生懸命に叩いても、なかなか割れないことを経験しながら、日本の伝統の1つを知ることができました。みんなで順番に叩いて、少しずつ切れ目が入ってくると、「やったー!あと少し!」「〇〇ちゃん、すごいね!」と雰囲気盛り上がっていきました。やっとの思いで割ったお餅ですが、今回は新型コロナウイルス感染防止のため、そのお餅は食わず、市販のぜんざいに白玉を入れて食べました。きっと今年も元気いっぱい過ごせると思います。



## \*豆まきをしました(2月3日)

子ども達は前日までに鬼面や豆を入れる三方を作り、豆まきを楽しみにしていました。学年ごとに発達に応じて、制作方法や材料を準備し、自分なりに選んで工夫できるようにしました。思い思いに作った鬼面が完成すると、とても満足そうな表情の子ども達でした。また、年長・年少組の子ども達は、みんなで協力して、大きな鬼も作りました。友達とイメージや色等を伝え合いながら一緒に作る楽しさも味わっていました。



当日は、鬼は大豆を炒る匂いが嫌いだという話を聞き、みんなで豆を炒る体験もしました。また、紙芝居『なぜ、せつぶん豆をまくの?』を読んでもらったり、節分の意味を知ったりした後、子ども達は自分の鬼面をかぶり、先生達が豆をまいて、一人一人が自分と向き合って、振り返りながら考えた鬼(怒りんぼ鬼、遅く食べちゃう鬼、すぐ仕返ししたくなる鬼等)を追い出しました。そして、先生達が赤鬼・青鬼・黄鬼に扮して出てくると、子ども達は大喜びで豆を投げ、「鬼は〜外、福は〜内。」としっかり豆まきをしたので、風邪鬼や新型コロナウイルス鬼も逃げていったことでしょう。



## \*子ども達のお買い物ごっこ(2月10日)

新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置のため、行事の変更をせざるを得ず、毎年恒例の長浜っ子フェスティバルも中止することにしました。フェスティバルは、子ども達が友達と相談しながら、店屋で売りたい物を作ったり、お客さんが喜ぶようなゲームコーナーを考えたりする中で、葛藤しながらも協同して作り上げていく経験ができます。子ども達がたくさんのお話を学ぶ機会ですが、保護者の方や未就園児親子に来ていただくことができないので、他の活動でこの『学び』ができるようにしたいと思っています。例年はフェスティバルの3日目に、先生達の手作りのお店屋を開いています。せめてこのお楽しみだけでも体験できるようにしたいと考え、おしゃれグッズ、かっこいい手裏剣、折り紙の独楽、凧、割り箸鉄砲等々、子ども達が喜びそうな品物を準備しました。子ども達は前日からワクワクしていて、プレイルームに置いていた商品を見ながらとても楽しみにしていました。買い物は、「ごめんください。これください。」と言って自分の好きな商品を選んで、チケットを渡し、お礼の言葉も言いました。お店屋さんでの言葉のやりとりも楽しんでいました。最後に保育室や廊下に隠してある番号のカードを見つけ、その番号の景品と交換してもらって宝探しもしました。大はしゃぎでカードを探し、見つけて歓声をあげていました。とても楽しいひとりが過ぎて、満足そうな子ども達でした。



「これください!」

どれにしようかなあ

こっちの色にしよう!

宝探しのカードはどこかな?